

シリアの動きとトルコ【2013年9月27日】

在イスタンブール日本国総領事館

1. 各国の動き概要

【シリア】

■9月20日、化学兵器禁止機関（OPCW）によると、シリアは同国が保有する化学兵器の詳細を同機関に報告済。シリアは、化学兵器約1000トンを保有しているとみられている。

■シリア外務省は、米英仏外相が強力かつ拘束力のある国連安保理決議を要請したことを批判。

■ジャルバー・シリア国民連合議長が国連安保理に対し第7章決議を要請。

■アレppo市の反体制武装勢力（アル・ヌスラ戦線等）は、インターネット上に「国民連合及び同連合から生じたアハマド・トゥマ氏率いる暫定政府を承認しない」と発表。

【NATO】

■9月19日、ラスマーセン NATO 事務総長は、シリアに対する軍事介入の選択肢は残していると発言。

【アメリカ】

■9月24日、オバマ大統領は、シリア危機の影響を受けた人々を支援するため、3億3900万ドルの追加拠出を発表。

【イギリス】

■9月25日、国連総会において、クレグ英副首相がシリア人道支援として100万ポンドの追加拠出を発表。

【ロシア】

■9月23日付大統領府ウェブサイトにおいて、集団安全保障条約機構（CSTO）声明として、国連安保理を迂回し、国連憲章に違反した形で行われるいかなる国際的介入も違法であると掲載。

※CSTO：ロシア、アルメニア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギス、タジキスタンにより締結された安全保障条約

【トルコ】

■9月22日、ギュル大統領は、イランを除いたシリアに関する議論は非現実的であると発言。

【オランダ】

■9月20日、オランダ外務省は、シリアの化学兵器廃棄のために、150万ユーロを拠出すると発表。

【日本】

■国連総会において、安倍総理はシリアへの人道支援として、6000万ドルの追加拠出を発表。

【参考】シリアにおける各勢力の掌握図



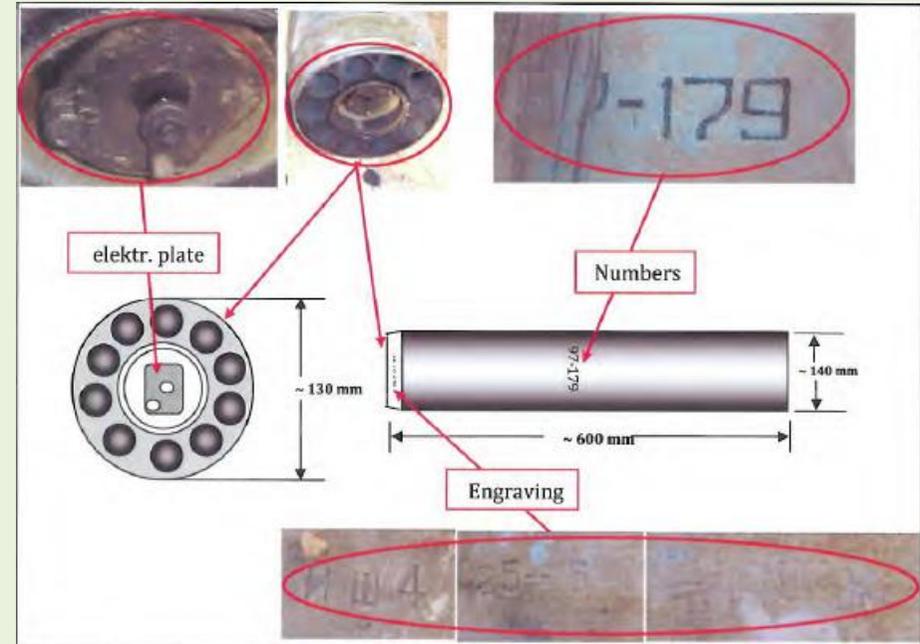
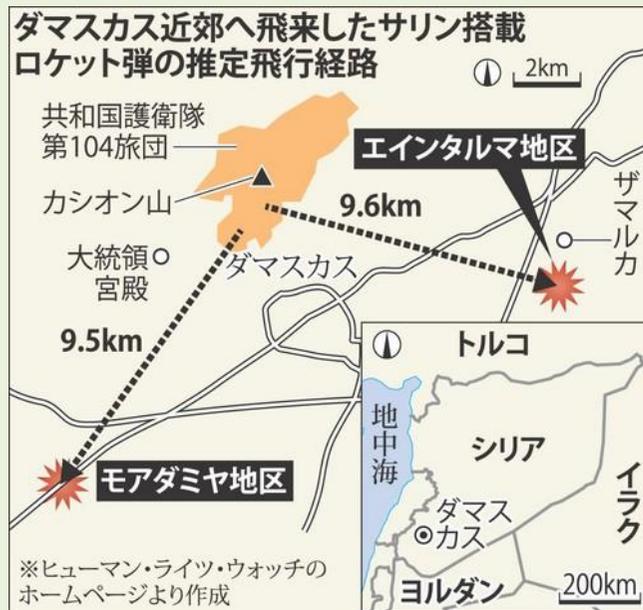
【注】

薄緑：シリア正規軍掌握地域
薄赤：反体制派掌握地域
赤：アル・カーイダ系グループ掌握地域
オレンジ：クルド系グループ掌握地域

(9月20日付C紙12面)

【参考】ダマスカスにおける化学兵器発射場所の推測

(※9月21日付毎日新聞インターネット版)



【参考】国連によるシリアにおける化学兵器使用に関する報告書

(9月16日公表、以下国連公式ウェブサイト上、同報告書から抜粋)

- ・サリンが使用されたことは科学的、医学的に明白。
- ・着弾した弾道や場所等については、以下のとおり。

①モアダミヤ地区着弾場所

弾頭は M14 ロシア製

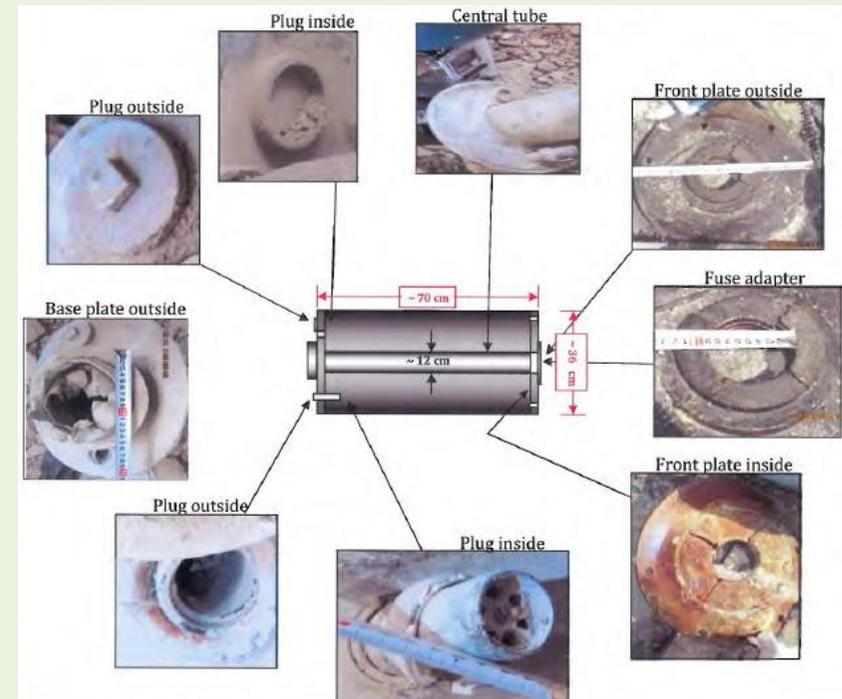
弾頭は、真方位 035 度（北東）から飛来している。

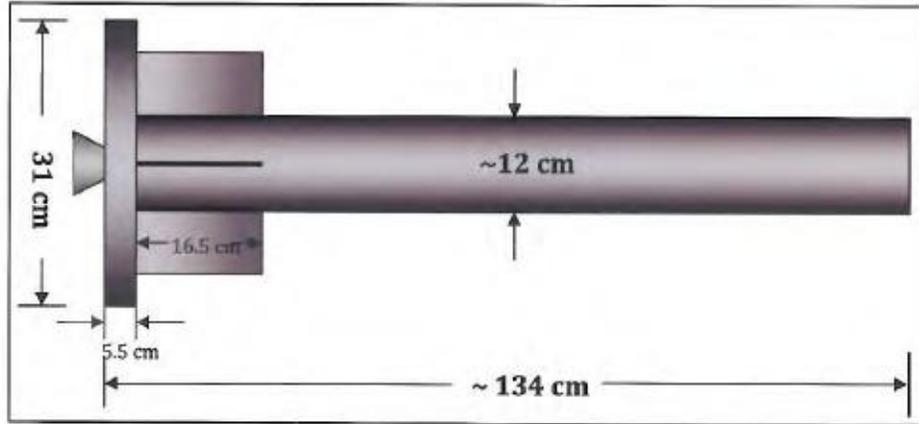
65m離れたカ所にも着弾しているため、2連装砲の可能性あり。

②エインタルマ地区着弾場所

弾頭は 330mm ロケット弾。

弾頭は、真方位 285 度（西北西）から飛来している。





2. トルコ国内報道（全国紙から抜粋）

●TUSKON 会長、シリアにおけるビジネス見通し立たず

ルザナル・メラル TUSKON 会長は、シリアにおけるトルコ企業活動に関して、現地における企業の被害状況から判断すると、同国での今後の活動に見通しが立たない旨の見解を表明。（9月23日付 HD 紙 10 面）

●駐トルコ米国大使

リチャード・ネ駐トルコ米国大使は、（米露が合意したシリアの化学兵器殲滅に関して）アサド政権がゲームをしようとするのは元から分かっている、ロシアがシリアをきちんと見て、シリアがゲームをするのは許可しないだろうと考えていると述べた。（9月23日付 H 紙 31 面）

●シリア側アゼズ

トルコのシリア国境から 5km 付近アゼズ地区は、自由シリア軍との戦闘後、アル・カーイダ系組織「イラク・ダマスカス・イスラム国家」(ISID) の支配下に落ちた。（9月23日付 HT 紙 18 面）

●【参考論調】トルコのシリア悪夢は大きく

先週、ケリー米国務長官がダーヴトオール外相をパリに呼んだのは、同外相の考えを聞くためではなく、米露が合意に至り、シリアが受け入れた内容をトルコに説明するためであり、トルコから妨害ではなくて支援を得るためであった。

AKP は、アル・ヌスラ戦線や同様のイスラム過激主義派グループらに対して精神的・ロジスティック支援を行っており、同グループらはアサド・シリア政権に対して最も良く闘っているとして欧米を説得しようとしたが、トルコは現在そのグループらがトルコの前に立ちはだかり、その代償を支払う様である。シリアが米露提案を実施し、アサド政権下地域の安定を取り戻したとしても、トルコ・シリア国境付近の穏健・世俗主義派と過激イスラム主義派の間の闘争は続くのは明らかである。（9月23日付 T 紙 2 面）

●トルコへのシリア人避難民

(1)トルコにおけるシリア人避難民数：20万1067名（避難場所及び病院）

（7月22日現在（最新データ）、トルコ首相府災害緊急対応総局（AFAD）のウェブサイトより）

(2)シリア人イスラム教徒のみならず、キリスト教徒からも避難先としてトルコを選び、イスタンブール（クンブルガズ、スィリヴリ、セリムパシャ、サマティヤ）においては、スーリヤーニー古代教会が所有する住宅に、シリア人キリスト教徒ら 100 名近くが滞在している。キリスト教徒間でも分断が起きており、彼らの多くはアサド政権派か反体制派といった支持表明はせず、東部マルディン県ミディヤットにはキリスト教徒 4000 名収容可能なキャンプがあるが、そこには行きたくないという。同教会は避難民のために住居と食料の支援を行うのみで、職斡旋はなく、避難民からもそうした要請もない。避難民の多くはスウェーデンやドイツ、オランダといった国々に行くこと望んでおり、既に難民申請済み。（9月23日付 T 紙 4 面）

●トルコ人傭兵シリア国内で戦闘

トルコ人兵士約 500 名がシリア国内で戦闘に参加している。3 種の形態が存在する模様。

①シリアでのジハード（聖戦）のため自由シリア軍に参加。イスラム過激派と行動を共にしている。

②シリア富豪が自己資産を守るために雇用（月額\$1500）した傭兵。

③トルコ国内の和平交渉により国外撤退した PKK 戦闘員が、シリアのクルド人組織 PYD（民主主義連合党）の戦闘員として活動している。

また、アサド政権はイランから戦闘に参加している傭兵数千名に対し、月給約 \$1500 を支給している模様。一方、反政府側グループ数は約 1200 に及び、それぞれ欧州や宗教的連結の強い様々な国から支援されており、ある国は複数のグループを支援している。（9 月 23 日付 T 紙 10 面）

●エルドアン首相、国連安保理に苦言

エルドアン首相は、国連安保理は機能しておらず、安保理の制度変更が必要と発言。（9 月 24 日付 HT 紙 16 面）

●将来的な避難民の扱い

トルコ関係筋は、現在シリアからの避難民をいずれはシリアに戻る人々として扱っているが、彼らがシリアに戻ることなく第三国への亡命を求める場合、第三国にどのように移送するのか等の問題が発生することに関して懸念している。（9 月 24 日付 HT 紙インターネット版）

●野党議員等、ジェムエヴィの避難民を訪問

野党 CHP 副党首、BDP 国会議員及びアレヴィー派財団関係者が、シリア避難民が滞在しているジェムエヴィ（アレヴィー派の礼拝所）を訪れた。（9 月 24 日付 T 紙 11 面）

●ラブロフ露外相、アサド政権が倒れた場合は危険

ラブロフ露外相は、アサド体制が倒れた場合、シリアにおいて過激イスラム主義派が政権を取ることは確実である、シリア反体制派の 3 人に 2 人ないし 4 人に 3 人が、アル・ヌスラ戦線やイラク・ダマスカス・イスラム国家（ISID）等過激派組織のジハーディストたちであるとテレビ番組で発言。（9 月 24 日付 T 紙 3 面）



※主にシリアと国境を接する上図赤線で囲った県における地方報道から抜粋

■軍警察（ジャンダルマ）ハールン・オジャクル中將がアクチャカレのシリア人キャンプ及び軍施設を視察した。（9 月 14 日付 shanliurfa.com）

■シリアにおいて戦闘するクルド人と共に闘うため、MLKP（マルクス・レーニン共産主義者党）構成員セルカン・トスンは、トルコからシリア国内に入り、シリアのクルド人武装組織 YPG（人民防衛隊）の一員としてアル・カーイダ関連組織アル・ヌスラ戦線との戦闘に参加していたが、ジェイランプナル近くのシリア側都市ラスラインにおいて戦闘中に死亡。ジェイランプナルでの葬儀には、ジェイランプナル市長、ESP（虐げられた社会党）ディヤルバクル代表、ESP ガーズィアンテップの代表らが参加。（9 月 17 日付 shanliurfa.com）

■キリス県ウンジュプナルにおいて、シリアからの避難民と住民とのいざこざが多数発生している。住民は、シリアからの避難民が公園等で寝泊まりしている状態は好ましくなく、臭いもあることから、県に対しキリス県内で別の避難民キャンプを新設するか、既存のキャンプへ移転するよう指示してほしいと要請している。（9 月 25 日付 kilispostas.com）

■9 月 13 日、ハタイ県において、タクシー運転手 1 名がシリア人 2 名により殺害された事件に関し、ハタイ県選出野党 CHP（共和人民党）メフメット・アリ国会議員は議会において質問したところ、同 2 名は既にシリアへ強制送還されていることが判明。（9 月 26 日付 hataygundem.com）

■シャンルウルファ県アクチャカレ村には、3 万人の避難民が生活しており、内 7,700 名が児童学生。同村では、シリア人児童学生に対し、ボランティア教師 250 名によりトルコ語を含めたシリア教育制度に近い教育をトルコ政府が実施中。（9 月 26 日 shanliurfa.com）

3. 地方報道（南東部地方通信社インターネット版から抜粋）